

# ケアラー実態調査結果

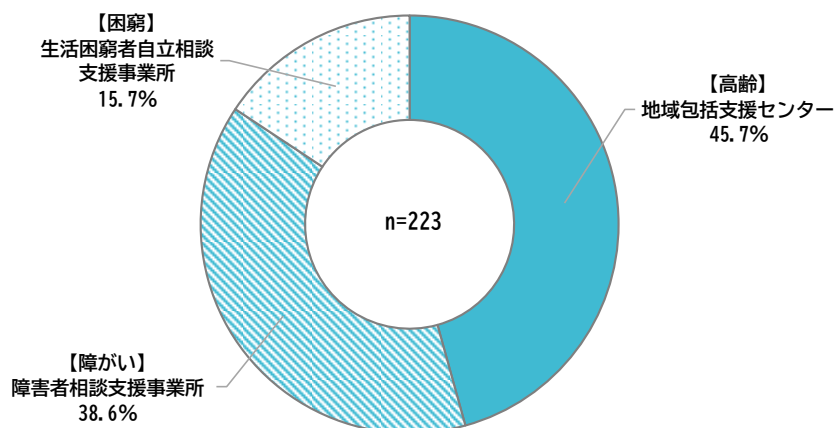
## ③相談支援機関

令和7年(2025年)11月  
北海道保健福祉部福祉局

## 1 属性について

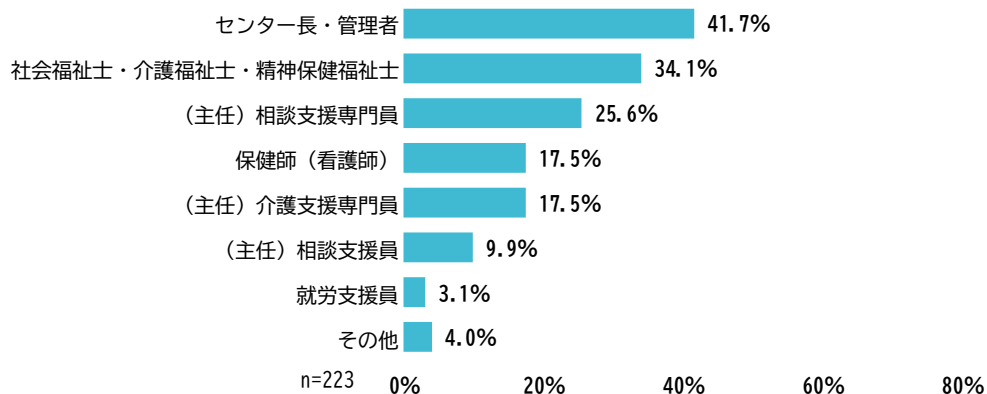
### (1) 事業所種別を教えてください。

回答者の事業所種別の割合をみると、「【高齢】地域包括支援センター」が45.7%、「【障がい】障害者相談支援事業所」が38.6%であった。



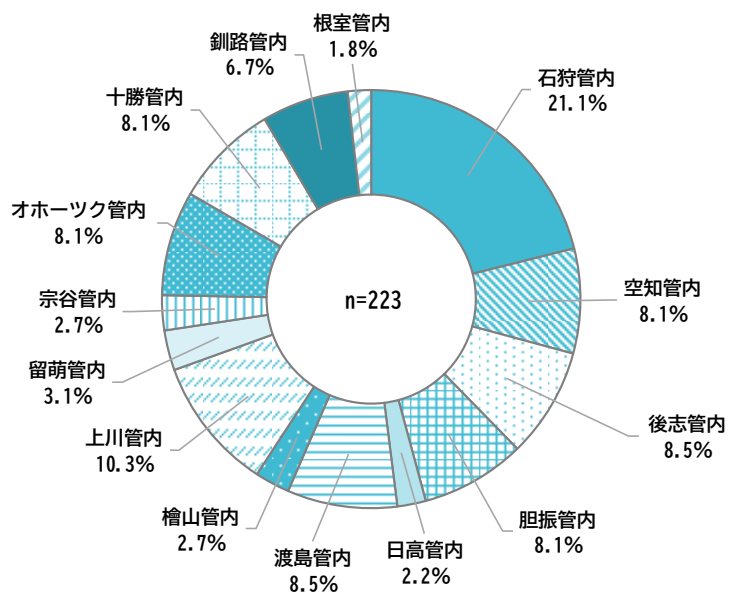
### (2) ご回答いただく方の職種を教えてください。(いくつでも)

回答者の職種をみると、「センター長・管理者」が41.7%で最も高く、次いで「社会福祉士・介護福祉士・精神保健福祉士」が31.4%であった。



(3) 貴センター・事業所の所在地（振興局名）を教えてください。

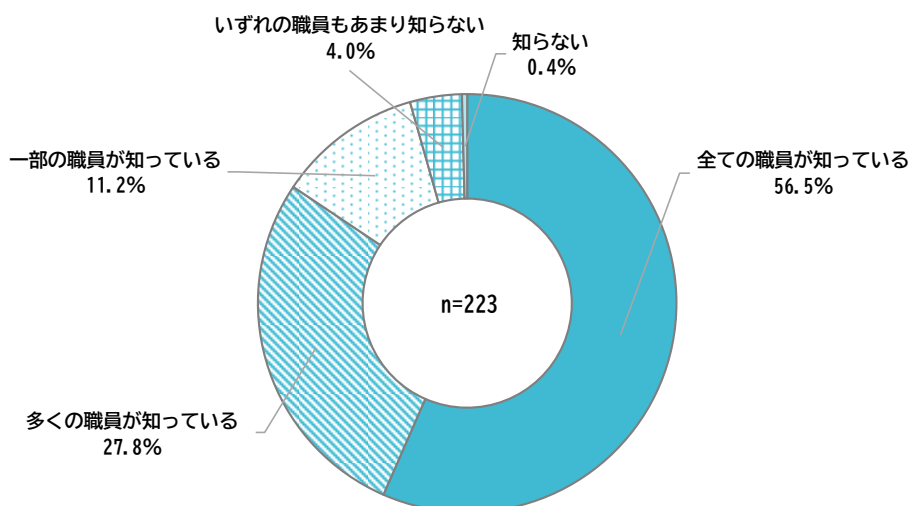
事業所の所在地をみると、「石狩管内」が21.1%で最も高く、次いで「上川管内」が10.3%であった。



## 2 ケアラーからの相談について

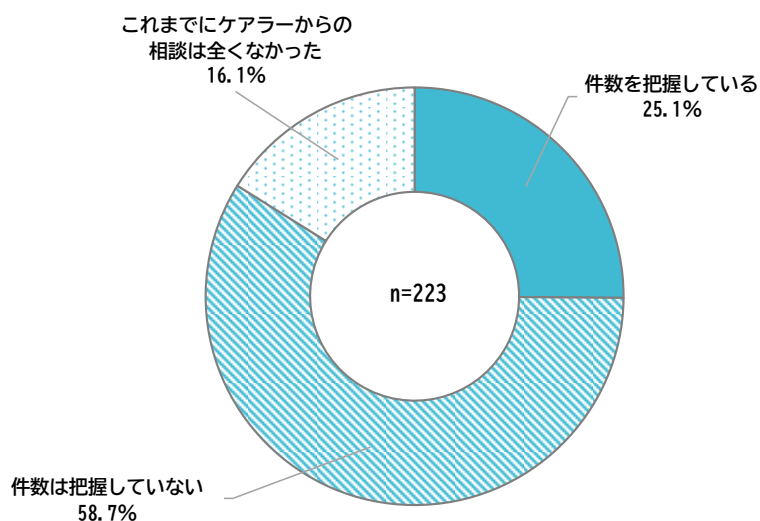
### (4) 貴センター・事業所におけるケアラー支援の認知度について教えてください。

事業所におけるケアラー支援の認知度をみると、「全ての職員が知っている」が56.5%で最も高く、次いで「多くの職員が知っている」が27.8%であった。



### (5) 貴センター・事業所では、ケアラー自身の負担や悩みなどについての相談件数を把握していますか。

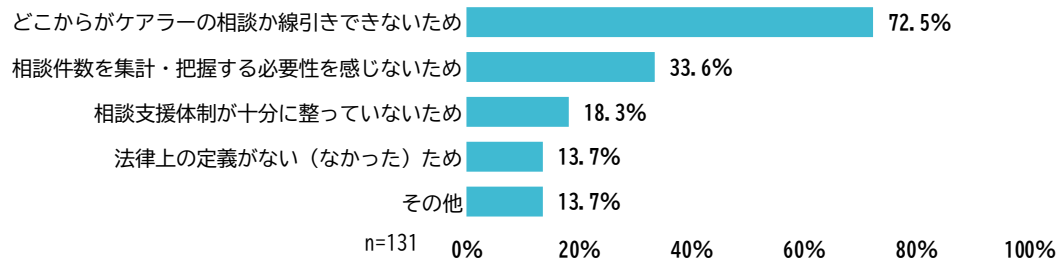
相談件数の把握状況をみると、「件数は把握していない」が58.7%で最も高く、次いで「件数を把握している」が25.1%であった。



(6) 相談件数を把握していない理由を教えてください。(いくつでも)

相談件数を把握していない理由をみると、「どこからがケアラーの相談か線引きできないため」が72.5%で最も高く、次いで「相談件数を集計・把握する必要性を感じないため」が33.6%であった。

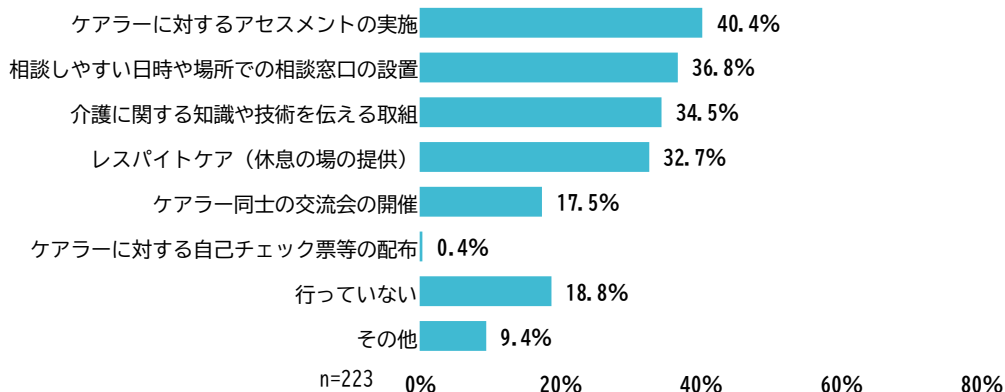
※ (5) で「件数は把握していない」と回答した方への限定設問



### 3 ケアラー支援について

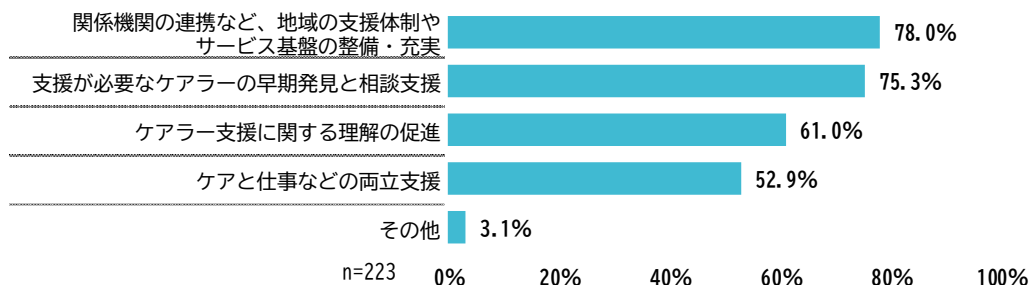
(7) ケアラー本人への直接的な支援として、ケアが必要な人をサービスにつなげる以外に、どのような支援を行っていますか。(いくつでも)

ケアラー本人への直接的な支援をみると、「ケアラーに対するアセスメントの実施」が40.4%で最も高く、次いで「相談しやすい日時や場所での相談窓口の設置」が36.8%であった。



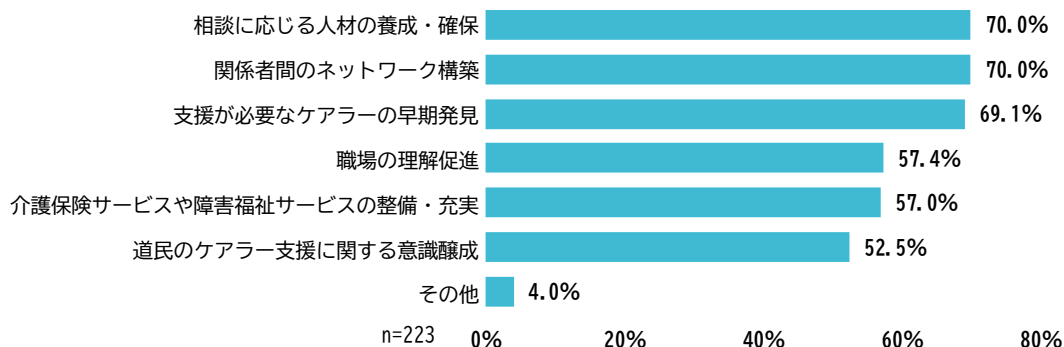
(8) (7) でお答えいただいた直接的な支援以外で、ケアラー支援として、どのようなことが必要だと思いますか。(いくつでも)

ケアラー支援として必要なことをみると、「関連機関の連携など、地域の支援体制やサービス基盤の整備・充実」が78.0%で最も高く、次いで「支援が必要なケアラーの早期発見と相談支援」が75.3%であった。



(9) (8) の支援を実現するため、道や市町村が取り組むべき事項は何だと考えますか。(いくつでも)

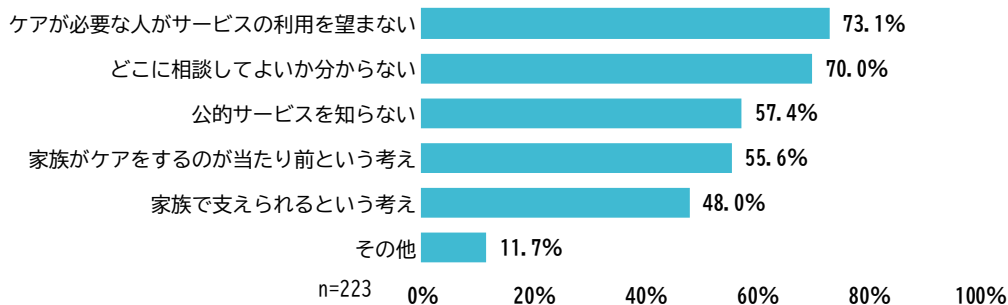
支援の実現に向けて自治体に取り組むべきことをみると、「相談に応じる人材の養成・確保」と「関係者間のネットワーク構築」がそれぞれ70.0%で最も高かった。



## 4 支援につながっていない事例への対応について

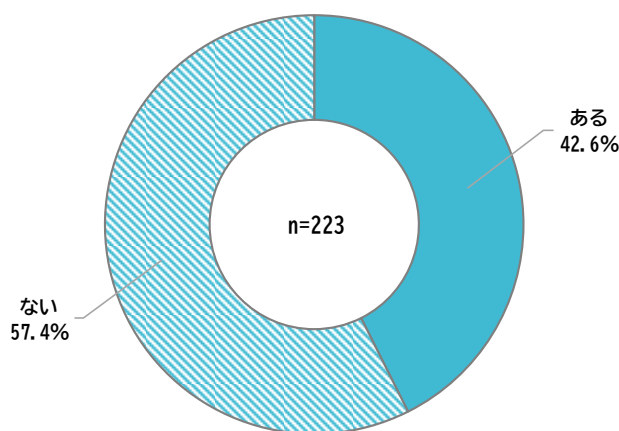
- (10) 介護、看護、日常生活上の世話その他の援助等のケアを必要としている人が、そもそも相談につながらない理由については、何であると考えていますか。(いくつでも)

相談につながらない理由にをみると、「ケアが必要な人がサービスの利用を望まない」が73.1%で最も高く、次いで「どこに相談してよいか分からない」が70.0%であった。



- (11) 令和6年度において、貴センター・事業所が受けた相談の中で、ケアを必要としている人が、公的サービスの利用に至らなかった事例はありますか。

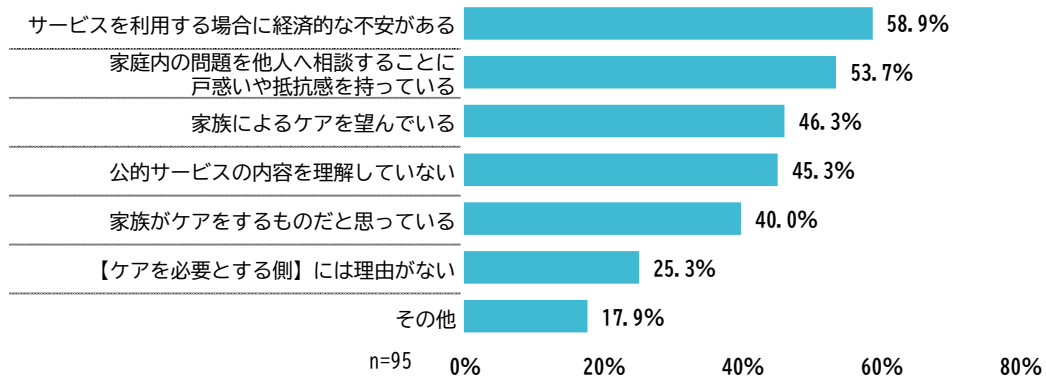
令和6年度におけるサービス利用に至らなかった事例をみると、「ある」が42.6%、「ない」が57.4%であった。



(12) 【ケアを必要とする側】相談があったにも関わらず、公的サービスの利用に至らなかった理由は何ですか。(いくつでも)

ケアを必要とする人がサービス利用に至らなかった理由をみると、「サービスを利用する場合に経済的な不安がある」が58.9%で最も高く、次いで「家庭内の問題を他人へ相談することに戸惑いや抵抗感を持っている」が53.7%であった。

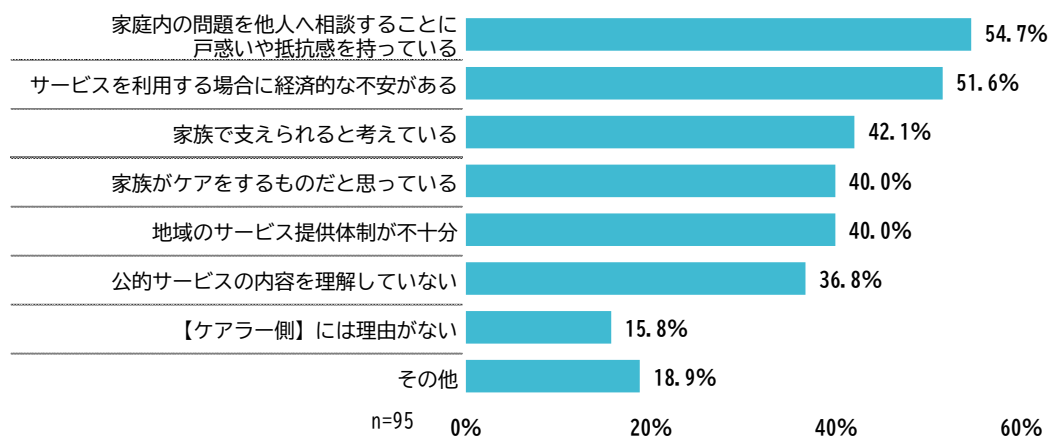
※ (15) で「ある」と回答した方への限定設問



(13) 【ケアラー側】相談があったにもかかわらず、公的サービスの利用に至らなかった理由は何ですか。(いくつでも)

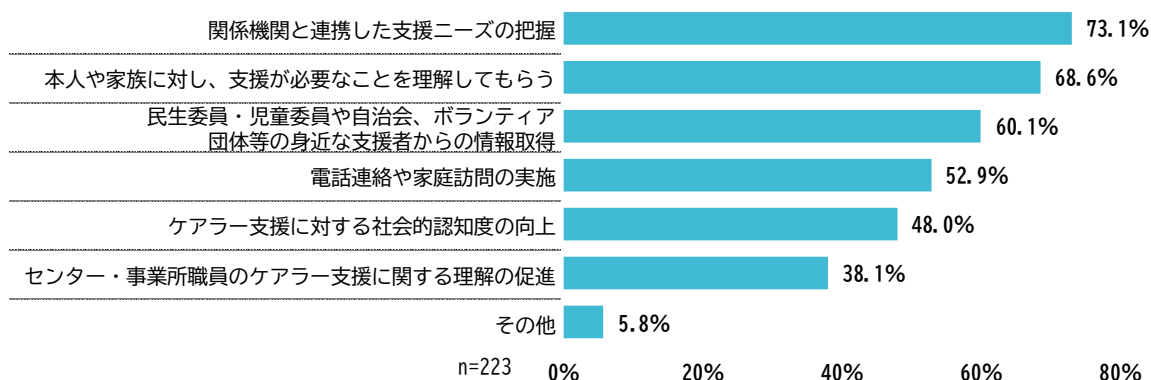
ケアラーがサービス利用に至らなかった理由をみると、「家庭内の問題を他人へ相談することに戸惑いや抵抗感を持っている」が54.7%で最も高く、次いで「サービスを利用する場合に経済的な不安がある」が51.6%となっている。

※ (15) で「ある」と回答した方への限定設問



(14) 支援につながりにくい家庭を支援に結びつけるために、どのようなことをして(必要だと考えて)いますか。(いくつでも)

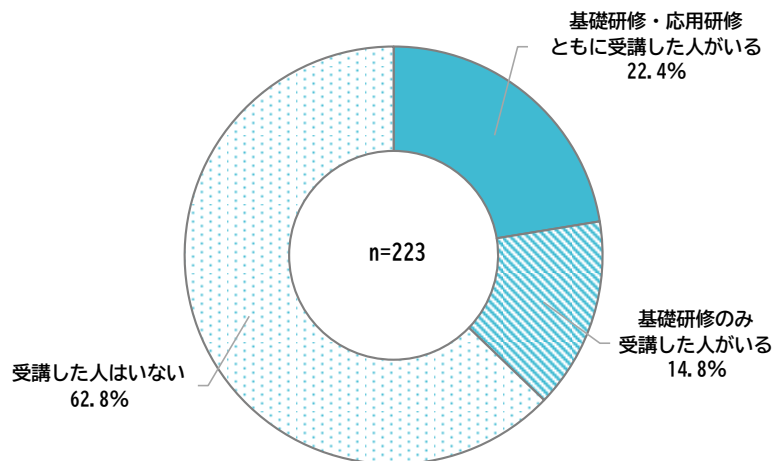
支援につなげるために必要なことをみると、「関係機関と連携した支援ニーズの把握」が73.1%で最も高く、次いで「本人や家族に対し、支援が必要なことを理解してもらう」が68.6%であった。



## 5 北海道が実施する「ケアラー支援関係機関職員等研修」について

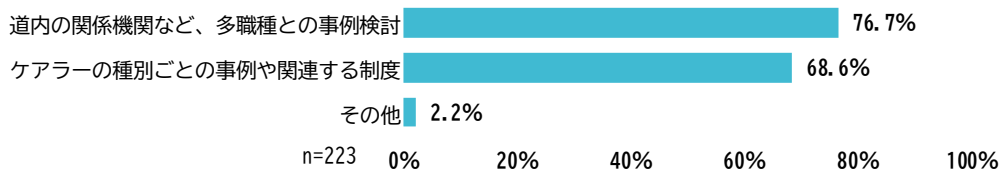
- (15) 貴センター・事業所では、「ケアラー支援関係機関職員等研修」の基礎研修や応用研修を受講した方はいますか。

「ケアラー支援関係機関職員等研修」の受講状況をみると、「受講した人はいない」が62.8%で最も高く、次いで「基礎研修・応用研修ともに受講した人がある」が22.4%であった。



- (16) 悩みや不安を抱える方を早期に把握し、適切な支援につなぐために、今後受講してみたい研修内容を教えてください。(いくつでも)

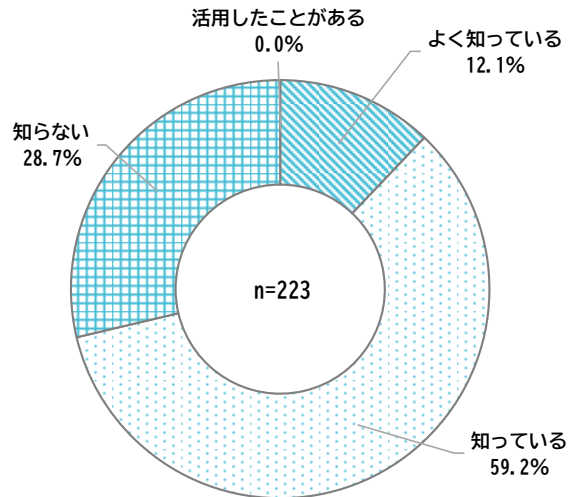
今後受講したい研修内容をみると、「道内の関係機関など、多職種との事例検討」が76.7%で最も高く、次いで「ケアラーの種別ごとの事例や関連する制度」が68.6%であった。



## 6 北海道が設置するヤングケアラー相談支援窓口等について

### (17) 「北海道ヤングケアラー相談サポートセンター（ヤンサポ）」を知っていますか。

「北海道ヤングケアラー相談サポートセンター（ヤンサポ）」の認知度をみると、「知っている」が59.2%で最も高く、次いで「知らない」が28.7%であった。



### (18) 「ヤングケアラーコーディネーター」を知っていますか。

「ヤングケアラーコーディネーター」の認知度をみると、「知らない」が48.4%で最も高く、次いで「知っている」が40.8%であった。

